

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2016年
4月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我秀一

印刷所
文明堂印刷所

「成長の過程」

司祭 パウロ 上原 信幸



今年は神戸教区にとって
宣教140年の節目の年に
あたります。

フォス・プランマー両師
が来日したのは、キリスト
教禁止の高札が下されて間
もない1876年で、「少年
よ、大志をいだけ」で有
名な、クラーク博士の来日
した年でもありました。
日本で最初の幼稚園が開
設され、多くのキリスト教
主義の学校・施設が誕生し
ていきました。しかし、1

40年を迎えたといつて
も、2000年を超えるキ
リスト教の歴史で考えれ
ば、本当にわずかな歴史し
かありません。

聖職の不足と、教会の高齡
化が言われていますが、実
際日本の教会は、2000
年の歴史を持つ教会全体を
20才の青年と考えれば、老
人どころか、まだ少年期に
も達していない1才半の幼
子のようなものです。

欧米の経済的な援助が終
わって、日本の教会の運営
が始まったのはほんの一番
のことです。自立したとい
っても、いまの日本聖公会
の体力では、全ての教会に
教役者を送ることもできま
せん。
しかし、いまから190

0年程前の、誕生150年
を迎えた初代教会も同様で
あったでしょう。様々な問
題を抱え、聖職不足という
点では、新約聖書の様々な
書簡からも判るように、複
数の教会を手紙によって指
導せねばならず、経済的に
も苦しく、働きの人は少な
かったのです。

聖パウロが、今のトルコ
にあるエフェソの教会に送
った手紙の中で、「今は悪
い時代だから、時をよく用
いなさい」と勧めています。
本当に苦しい時代だったで
しょう。「風前の灯火か」
といった危機感に、常にさ
いなままれていたのではない
かと思えます。

しかし、迫害の続く中、
300年目にいたった初代
教会は、多くの困難を越え
てローマの国教となってい
ました。けれども、そのこ
とは一人ひとりが強い存在
だったということの意味し
ていません。弱い人間を、

神さまが養い、導いてくだ
さったからこそ、クリスチ
ヤンは多くの困難を乗り越
えてきたのです。

教会が誕生して140年
目の時期は、皇帝マルクス・
アウレリウスによる大迫害
の時代でした。その時代を
生きた神学者のエイレナイ
オスは、「新しく創造され
たものは幼く、未成熟であ
り、まだ大人の生活の仕方
をはじめの準備はできてい
ない」と語っています。

人間は完全な者として創
造はされていませんが、完
全へ向けての可能性を持つ
て創造されており、成長を
通して実現させていくのだと
いうのです。

「神様は、人間を完全な
者として創ることはできな
かったのか？」という問い
から始まる文書資料です。

詩編42編に「神はどこか
と絶えず問われる」という
1節がありますが、そのよ
うに、「お前の信仰する神
は、お前を守護するはずな
のに苦境を見過ごしにする
のはどうしたことか」と、
異教徒に罵られる状況が常
にありました。

個人としてだけでなく、
教会についても同じ事です
よう。神様は教会を完全な

ものとして、お造りになる
ことはできなかったのか、
キリスト教信仰が正しいも
のなら、なぜ苦難の中にあ
り、不完全な小さなままで
あるかという問いにさらさ
れ続けたことでしょうか。

しかし、迫害の中エイレ
ナイオスは、成長を説きま
した。教会も同様で、教会
は完全性へ向けての可能性
を持って創造されており、
完全性は成長を通して実現
されなくてはならないとい
うことです。

多くの時代、様々な場所
で、多くの先人が様々な課
題に直面してこられました。
不完全な教会は様々な問
題を抱えながらも成長の途
中にあります。

教会の課題を嘆き、ただ
不安に思うのではなく、日
本の教会は、まだ大人とし
ての責任を果たすにいたっ
ていない、「教会」として
の幼児期なのだということ
を自覚することが必要で
す。そして、その使命を果
たすことなく消えていく存
在ではいけないのだとい
うことを忘れずに、成長の
過程を希望を持って歩みた
いと思えます。

(岡山聖
オーガスチン教会牧師)

ウイリアムス神学館卒業礼拝

去る3月11日(金)午前11時から京都教区主教座聖堂聖アグネス教会でウイリアムス神学館の卒業礼拝が

高地敬京都教区主教司式、中村豊神戸教区主教の説教で執り行われました。今年度は、神戸教区からテモテ遠藤洋介聖職候補生が3年間の学びを終えて卒業、ま



た京都教区からアンデレ江渡由直聖職候補生が一年の学びを終え修了しました。

礼拝には、遠藤・江渡両聖職候補生のご家族、出身教会や実習教会、そして4月からお二人が勤務される教会の方々など約80名の人が卒業式に駆け付けて下さいました。

遠藤聖職候補生は、3年前に神学館に入学。同級生が一人もない状態での3年間となりましたが、上級生や下級生と共に3年間の寮での共同生活を送り、共に祈り、共に学ぶことを通して、自己の召命を見つめ直し、神様と人に仕える者となるために整えられてきました。そして、神戸教区にとつて将来を担う新しい教役者が与えられることは、大きな喜びです。

4月から遠藤聖職候補生

は、広島復活教会に勤務されます。また神戸教区から新たに2名の神学生がウイリアムス神学館に入学を予定しています。

新しい教役者の上に、また神戸教区のこれからの働きの上に、神様の豊かな祝福が与えられますよう、お祈りください。

(広報部 浪花 記)

神学生の3年間で振り返って

聖職候補生

テモテ 遠藤 洋介

この3月にウイリアムス神学館を卒業いたしました。入学前から今日にいたるまで、多くの方からお支えいただき、またお祈りに覚えていただき、無事に3年間を終えることが出来ました。この場をお借りして、感謝いたします。本当にいつもありがとうございます。



います。神学生になるまで、神さまについて学べるのが、知れることが、これほど楽しく、恵み溢れることだとは思いませんでした。私にとってはそのことが一番の収穫であったかと思えます。

神学生生活を振り返って思うことは、人生で今までこれほど勉強をしたことはまずなかったということだと思います。それと同時に、今までこれほど学ぶということが楽しいと思ったこともありませんでした。神学館では、三年間で聖書学、礼拝学、教理学、教会史、牧会学、語学など色々なことを学びます。教会実習でも学ぶことがたくさんありました。しかし、どれも共通して最終的に求めていることは神さまを知ることなのだと思います。

新年度から私は広島復活教会へ遣わしていただきます。神学生生活で学んだことをどれほど活かせるかわかりませんが、できることを精一杯こなしていけたらと思います。三年間、本当にありがとうございました。引き続き、皆さまのお祈りの内に覚えていただき、仕えさせていただきます。ただできれば幸いです。



神戸昇天教会の歴史は1897年楠町5丁目に置かれた神戸ミカエル教会の「楠町講義所」に始まります。1900年、神戸ミカエル教会の教会委員会はこの講義所の分離独立を決議し、覚前政蔵長老が司牧する独立会衆となりました。信徒増加により現在地を用



地を取得。1910年に教会堂を建築して「昇天教会」と命名されました。また隣接地に宣教師によって宣教師・女教師館が建てられ、一部を園舎として昇天幼稚園が始まりました。教勢は増して行きました。が、やがて戦時色が濃くなり、教会にとって暗い時代となりました。1945年



3月17日の空襲により隣接地まで火災が迫りましたが、袴田観一長老と信徒の献身的な防火活動により礼拝堂等の焼失は免れました。

戦後復興の時代を経て1958年牧師館・幼稚園舎を新築。1980年頃には信徒数180名前後となりました。しかし1993年少子化の影響を受け幼稚園を廃園。1995年の阪神淡路大震災により礼拝堂、牧師館共に損傷を受けましたが倒壊は免れました。2000年、教会創立100年記念感謝礼拝が行われ、その記念事業として教



会付属建物建て替えが計画され、2003年に管区の阪神淡路大震災復興資金から多大な資金援助を受けて集会ホール、牧師館が与えられました。現在同ホールは地域の体操教室や認知症カフェなどにも利用されていますが、こうした地域との交流促進が宣教の一環となるように願っています。また2010年に礼拝堂献堂100年を迎え屋根、塔屋などの部分修理を行いました。築100年以上の木造礼拝堂は建物としても貴重なものとされています。
(牧師・小南 晃司祭)

東日本大震災 5年記念礼拝

去る3月6日(日) 15時から、神戸伝道区主催で東日本大震災5年記念礼拝が、伝道区教役者によって執り行われた。また、伝道区から集った約100名の方々と共に祈りをささげた。



礼拝では、東日本大震災が発生して、すぐに東日本へ駆けつけた坪井智執事の奨励と東北教区の越山健蔵司祭からメッセージが語られた。また、「祈りの輪」と題して、東日本大震災や福島第一原発事故によって、困難な生活を今なお余

儀なくされている方々、避難生活の中にある方々、津波によって世を去った方々の魂の平安を伝道区内各教会からの祈りを繋げて、神様におささげした。

また、黙想の時では、教区大聖堂聖歌隊によって聖歌第526番と「花は咲く」(作詞：岩井俊二、作曲：菅野よう子)の、松蔭大学職員の緋田吉也兄から「川のはとりで」(アーロン・コーブランド編曲)の歌の奉仕がささげられた。

3月11日、東日本大震災から5年の時を迎えました。が、未だその傷は、完全に癒されていません。一日も早い神様からの完全なる癒しが東日本大震災で被災した、全ての人々に与えられますよう、祈ります。

左の写真は

東日本大震災当初のもの



鳩だより

《敬称略》

祝 堅 信

12月20日(日)

マリア 那 須 澄 枝
呉信愛教会

ご 逝 去

3月3日(木)

グレース 緒 方 恵
広島復活教会

教 籍 移 動

2月23日(火)

ミリアム 伊 藤 純 子
聖路加国際大学
聖ルカ礼拝堂より
神戸聖ミカエル教会へ

神戸伝道区

◎2月23日(火)に神戸伝道区教役者の大斎節黙想会が神戸聖ペテロ教会を会場に行われた。講師は上原信幸司祭。6名の教役者が参加し、有意義な黙想の時となった。

◎姫路顕栄教会

3月4日(金)、世界祈禱日の礼拝が教派を越えて各地域で執り行われたが、兵庫県播州地区(加古川・姫路・赤穂周辺)では姫路カトリック教会で開催された。

今回は6教派20教会から約70

名が参加したが、姫路顕栄教会からも7名が参加して礼拝を共にして親睦の時をもった。毎年、聖公会、ローマカトリック教会、日本基督教団、バプテスト同盟などが中心になって準備に当たっている。



今回は講師に遠藤雅己執事(神戸国際大学学長)をお迎えして、宣教師としてフィリピンに派遣され、山岳地帯を中心に伝道されたときの体験を通して宣教とは何か、また海外宣教の重要性を訴えられた。

◎神戸聖ミカエル教会

3月12日(土)16時から上原信幸司祭ご一家と浪花朋久執事の送別会が教会地下ホールで行われました。約80名が参加し、交わりの時を持つことが出来ま

した。4月から上原司祭は岡山聖オーガスチン教会へ。浪花執事は浜田キリスト教会へそれぞれ赴任します。お二人のこれからの働きのために神様の祝福がありますように、お祈りいたします。

徳島伝道区

◎徳島聖テモテ教会

2月11日(木)昼から夕方にかけて、第3回の大人会&三木ライブが行われた。

今回も、1階集會室で、持ち寄りの食事を楽しみ、2階礼拝堂で、いつもの三木亜佐子姉によるライブが行われた。今回のライブは、現代サウン



ドに乗せた古今の聖歌を聞くという、今までにない趣向のもの。しかも内容は、すべて大斎節にちなんだものが選ばれていた。約15名が参加した。

広島伝道区

下関聖フランシスコ・ザビエルのホーム・ページ2月から立ち上がりました。ホーム・ページでは、教会の行事案内などが記載されています。ぜひご利用ください。

インターネットで「徳山聖マリア教会」へアクセスして「リンク集」から「下関聖フランシスコ・ザビエル教会」へジャンプすることが出来ます。以下の写真はホーム・ページのトップ画面です。

<http://shimonoseki.seikokai.org/>

5月の教区関係教役者逝去記念聖餐式

日時 2016年5月12日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 中村 豊
説教 司祭 竹内 宗

*5月の記念逝去教役者

2日	司祭	蔵 政	覚 前
5日	宣教師	ド 太	ヘ 吉
6日	司祭	要 郎	ウ エ
10日	司祭	ト ン	フ ラ
14日	伝道師	初 子	マ リ
16日	司祭	浩 一	ポ ウ
19日	司祭	欽 四	パ ウ
22日	司祭	郎 吉	ペ テ
24日	司祭	豊 吉	ヨ ハ
24日	司祭	磐 吉	パ ウ
26日	司祭	萬 達	
27日	司祭	千 秋	バ ル
28日	司祭	田 千	バ ル
29日	司祭	ト ン	ア ー
30日	宣教師	ス	ネ ス

お詫びと訂正

『神のおとずれ3月号』の鳩だよりで、11月21日(土)の逝去者ヨセフ白井清隆兄が「徳山聖マリア教会」となっていました。正しくは「下関聖フランシスコ・ザビエル教会」です。謹んで、お詫びし、訂正いたします。

